



今岡 芳徳
水曜会

排水施設の現状と課題は

問 浸水対策として、雨水排水ポンプ場や農業用の排水機場などの排水施設が整備されているが、現状と課題は。

答 市が管理する雨水排水のポンプ場は26施設、農業用の排水機場は5施設。その他、土地改良区が所有・管理する排水機場が10施設あり、



木村 秀樹
水曜会

ため池の耐震性は

問 市内各地にかんがいを目的としたため池が多数存在する。中でも貯水量の多いため池は県の管轄となっており、昨年度、県は耐震診断を行うため、各地の池でボーリング調査を行った。当初、昨年度末までに耐震診断結果がまとまるとのことだったが

設あり、点検結果に基づく補修を随時行い、施設の機能を確保している。

農業用の排水機場は現在、対象地域の市街化が進み、農地と宅地が混在する地域の浸水対策が主な役割で、これら施設の老朽化対策は今日の市街化の進展状況を勘案する中で、関係機関や水利関係者と連携し検討する。



中央ポンプ場(東川口町)

が、いまだに公表できていない理由は。

答 平成25年度に県において、規模、影響度の大きい市内のため池26カ所について実施されたが、その調査結果について、現在、精査しているところであり、診断結果がまとまり次第公表する方針と聞いている。



連石 武則
水曜会

養育支援を必要とする家族支援は

問 本年5月、男児の白骨遺体が死後7年たつて発見された厚木市の事件をはじめ、過去にも育児放棄など全国で多くの痛ましい児童虐待の報告がある。乳幼児健診未受診などの家庭は、虐待の発生リスクが高く、



生田 政代
公明党

子育て支援について

問 ①本市の支援事業の特徴と今後の課題は。②県の事業との連携は。

答 ①これまで、充実した就学前施設を活用した多様な保育サービスにより、待機児童ゼロを継続しながら、安心して子どもを産み育てることができる環境づくりに

支援の検討が必要と考えられる。本市の乳幼児健康診査等の状況と対策は。

答 1歳6カ月児健康診査は93.8%、3歳児健康診査は92.6%で、未受診者には家庭訪問や電話等で受診勧奨に努めている。居所不明児童生徒は毎年5月1日時点での調査を実施し、今年度は0名である。居住実態などの家庭状況把握が困難な児童については、こども家庭センターなどの関係機関と連携し、所在把握に取り組んでいる。

取り組んできている。一方、少子化や核家族などの進展に伴い、子育ての孤立化や子育てに不安や負担を感じる親が増加しており、家庭や地域、企業、行政が一体となって、出産・子育てがしやすい環境づくりに、より一層取り組むことが重要と考える。②関係課が広報・啓発を通じた連携を図っており、県の事業と呼応することによるメリットも生かしながら、子育て支援などの充実に取り組み。

※フクノワ (P.5)：中心市街地の活性化に向けて、「福山の未来づくりワークショップ」から生まれた、市民によるまちなか活動の総称。